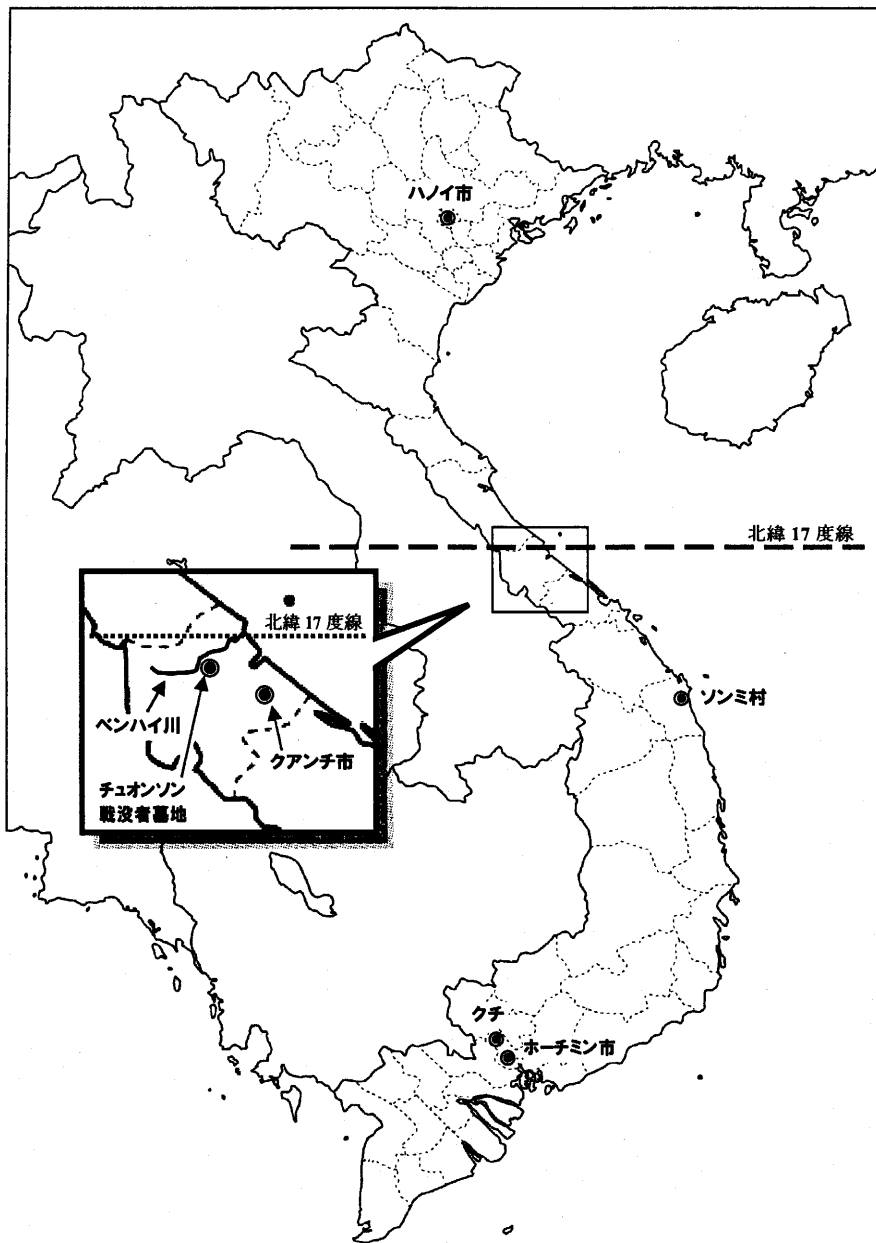


写真ライブラリー

ベトナムにおける記憶のかたち

— 記念碑・史跡をめぐる旅 2007/3/4-9 —

o o ベトナム地図 o o



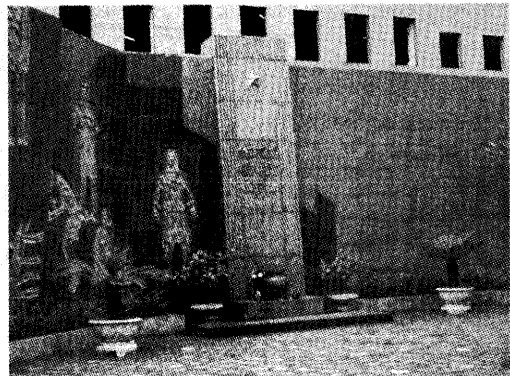
o0 ハノイ市 0o



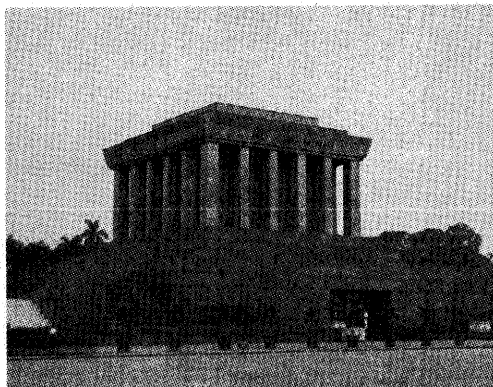
ハノイ市街の風景に溶けこむ記念碑。これらの記念碑は、1946 年の 12 月、フランス軍がハノイ市に侵攻した際の、人民の抵抗を表現している。その後、ホー・チ・ミンを主席とするベトナム民主共和国政府は、ハノイ市から山岳地方に逃れ、フランスを相手にゲリラ戦を展開した。



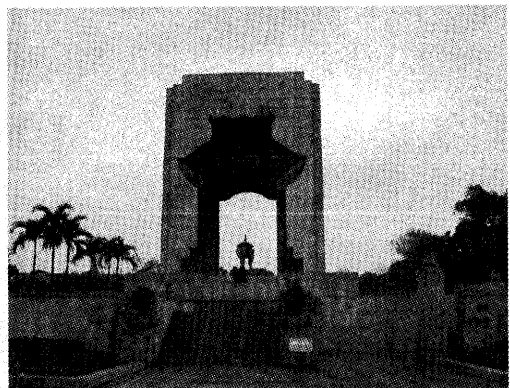
1944 年から 45 年にかけて、台風による水害や日本軍による食料調達が原因となり、北ベトナムで多くの者が餓死に追いこまれた。その数は 200 万人をこえるともいわれている。写真は、ハノイ市東部の居住区にたたずむ、その死者を悼む慰霊の記念碑を写したものの。



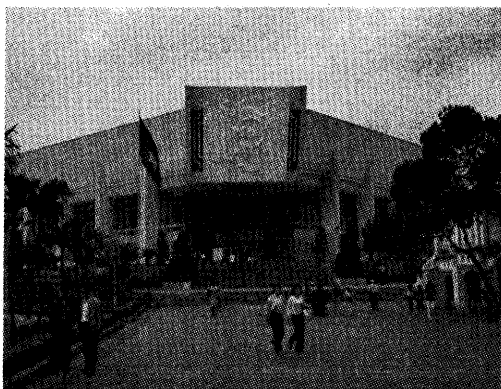
フランス植民地期に政治犯が収監された、ハノイ市内のホアロー収容所の跡地。ベトナム戦争期には、米空軍の捕虜が収容され、「ハノイヒルトン」とも呼ばれた。写真に写された壁面には、かつて収監されながらも闘争をつづけた革命家たちの姿が描かれている。



ホー・チ・ミン廟。防腐措置の施されたホー・チ・ミンの遺体が眠る。廟の前には、1945 年 9 月 2 日に、ホー・チ・ミンが独立宣言を読みあげたバーディング広場が広がっている。



ホー・チ・ミン廟の正面からバーディング広場を通りすぎ、数百メートル直進すると、この無名戦士の碑に会おう。ホー・チ・ミン廟を遥拝する感じになる。

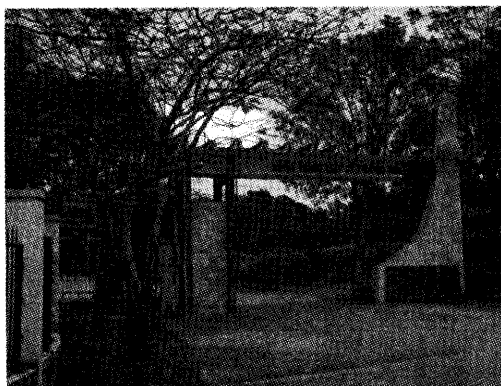


ホー・チ・ミン廟に隣接する、ホー・チ・ミン博物館の前景。



ハノイ市の軍事博物館の敷地内に設けられた記念碑。墜落した飛行機などのスクラップを積み重ねて作られている。

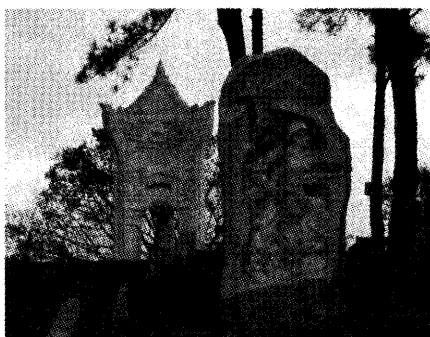
o o チュオンソン戦没者墓地 o o



ベトナム戦争の激戦地は何箇所か存在するが、南部への補給路(通称ホー・チ・ミンルート)の通るチュオンソン山脈も、そのうちのひとつであった。現在、クアンチ省の山間の地域に、ベトナム最大規模の戦没者墓地が設けられている。写真は、その墓地の入り口を写したもの。



墓地の敷地内に設けられた像。出征する息子と、それを見送る母親の姿をかたどっている。



兵士たちの像を幾度か横切ると、墓地の中心に設けられた戦没者記念碑にたどりつく。

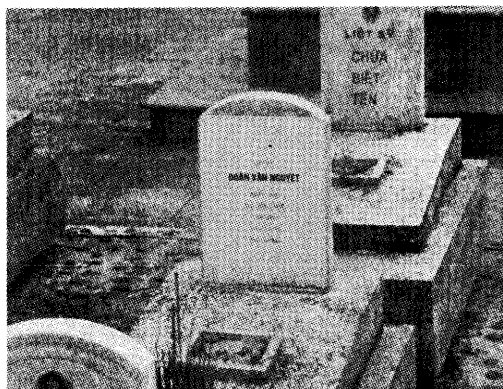
60 ベトナムにおける記憶のかたち



戦没者記念碑にお香を手向ける大学生たち。



戦没者記念碑の周囲を無数に埋める戦没者たちの墓。



なかには、身元不明者の墓もある(“CHUA BIET TEN”と記された墓)。後に身元が判明した者の墓には、その氏名や生没年などの情報を記した石版や紙片が付されている。

〇〇 クアンチ省 〇〇



中部ベトナムのクアンチ省にある、時代ごとの連絡兵の姿をかたどった像。槽をこぐ男性の姿や、無線機を背負う男女の姿が、表現されている。

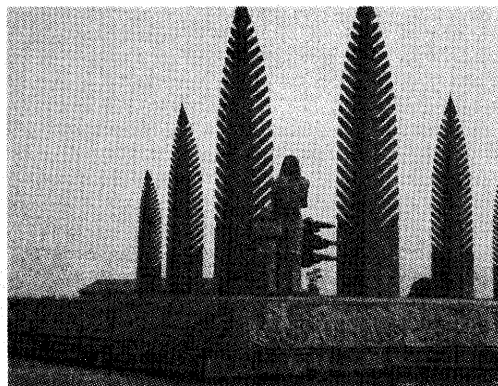
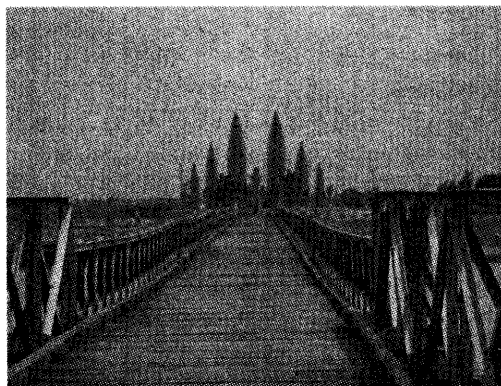


米軍が撤退する直前の1972年、クアンチ省では、人民軍と米軍とのあいだで激しい戦いが繰り広げられた。写真は、そのときの激戦の跡地である、クアンチ市内の仏教学校がーデー校。

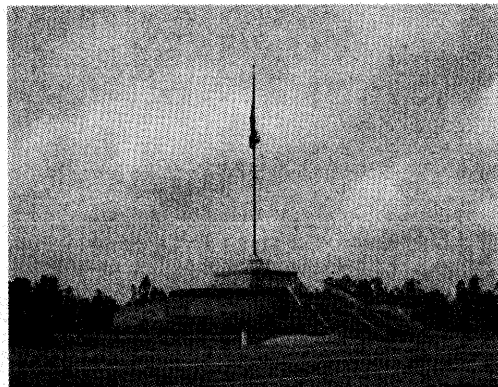


クアンチ省の激戦地跡に作られた記念碑。同省を解放するために兵士たちが流した血の雫が表現されている。

o o ベンハイ川 o o

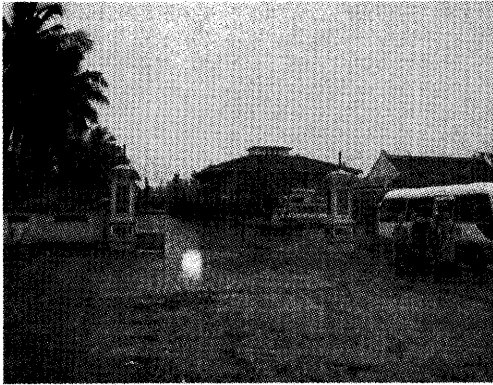


かつて、南北ベトナムを分断する軍事境界線が、北緯17度線付近を流れるベンハイ川にそって引かれていた。川にかかるヒエンルオン橋は、1967年に米軍により爆破されたが、現在は当時の姿で再建されている。その南側には、橋を渡り北ベトナムに逃れようとする母子の像が設けられている。



ベトナムが分断されていた時期に、ヒエンルオン橋の両側には、南北両国の国旗掲揚台が設置されていた。その当時、国旗の高さや大きさが競い合われたという。北ベトナムの国旗掲揚台は、1967年に米軍が橋を爆撃したときに、ともに破壊された。写真は、後に再建された国旗掲揚台を写している。

o o ソンミ村 o o



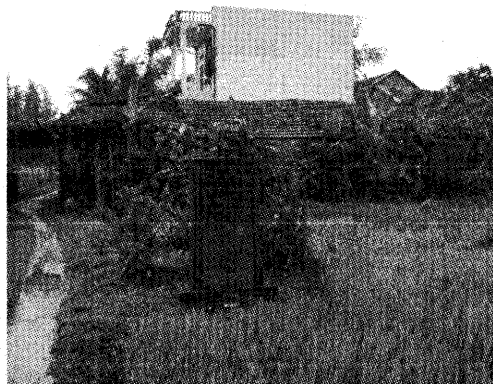
1968年3月16日、ベトナム共和国クアンガイ省ソンミ村ミライ地区において、米軍部隊が504人およびベトナム民間人を虐殺した。現在、その地には記念館が設立されており、米軍の残虐な行為を生々しく伝えている。左の写真は、記念館の入り口の光景。右の写真は、敷地内に設けられた記念碑。



記念館の敷地内には、米軍が破壊した後の村の姿が復元されている。写真に写されているのは、焼かれた後に残った家の土台が復元されたもの。



米軍による虐殺を描いた壁画。これもまた、記念館の敷地内に設置されている。



記念館の外にでると、静かな村の光景が広がっている。写真は、虐殺の現場にひっそりとたたずむ、死者を悼む石碑を写している。

〇〇 ホーチミン市(旧サイゴン市) 〇〇

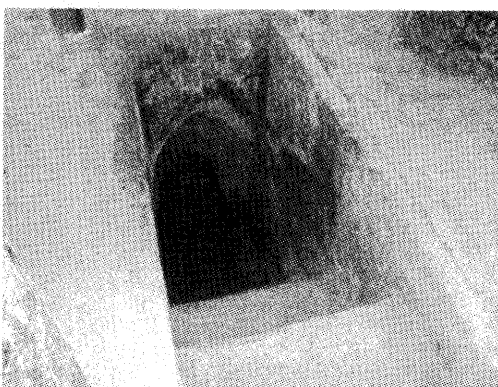
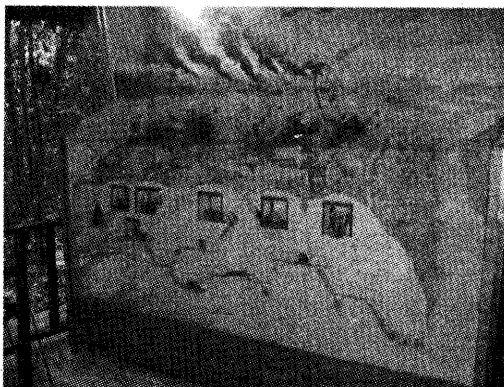


ホーチミン市にある、戦争証跡博物館前の光景。

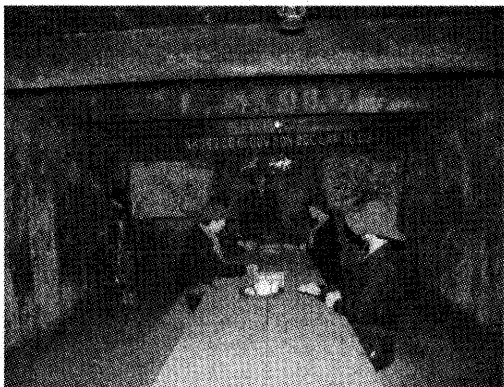


旧南ベトナム大統領官邸。1975年4月30日に、解放軍の戦車が同官邸を占拠し、戦争が終結した。

〇〇 クチ 〇〇



ベトナム戦争のあいだ、南ベトナムのゲリラたちは、サイゴン市の北方に位置するクチの地下にトンネルを掘り、その活動の拠点とした。クチの地下トンネルは、現在は訪問者の多い観光地となっている。左は、そのトンネルのミニチュア。右は、復元されたトンネルの入口。

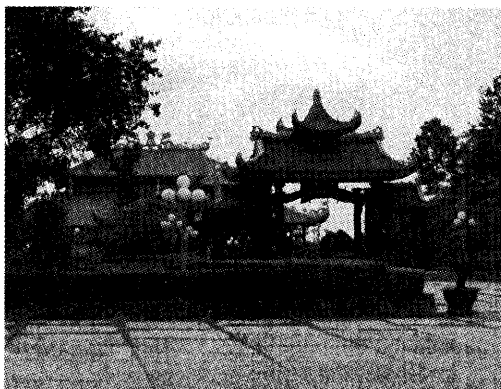


復元されたトンネルに入り、そのなかを道なりに進むと、当時の司令部が再現された一室につきあたる。



数多くのゲリラが潜伏するクチは、米軍による激しい爆撃の対象となった。写真に写されているように、その地には現在でも、当時の爆撃でできた穴が数多く残されている。

o o ベンズオック戦没者哀悼施設 (đền) o o



クチのベンズオックに建てられた戦没者哀悼施設。左の写真は、施設の正門から正殿までを写したものだ。右は、施設内の九重の塔。この施設は、フランスとアメリカとの戦争において、サイゴン周辺にて戦没した兵士や、共産党の非軍事部門の犠牲者、「英雄的ベトナムの母」を哀悼の対象とする。ただし、南ベトナムの政府や軍の関係者は、その対象ではない。



戦没者哀悼施設の正殿には、3つの祭壇が設けられている。左の写真に写された正面の祭壇は、ホー・チ・ミンの像があわせて設置されており、祖国のための犠牲者を哀悼する。右の写真は、正面に向かって左手の壁に設置された祭壇を写している。この祭壇と、右手の壁に設置された祭壇の2つの祭壇は、身元が明らかでない死者に捧げられている。御影石の壁面には、戦没者たちの名前が金字で刻まれている。